

防災ドラマ

本ドラマのテーマ

「東海地震後の余震や生活に関する防災に注目したこと」

制作

「埼玉東地区防災有志団」《登場人物》

第1章

目黒貴士 ↓ 東京都千代田区働く会社員。住まいは埼玉県春日部市。
中野 ↓ 目黒の上司。
避難所の職員 ↓ 学校の先生。避難所を取りまとめている。
店長 ↓ 近所のスーパーの店員

第2章

和泉 ↓ 大阪の大学に通う学生
神戸（かんべ） ↓ 大阪の大学に通う学生。和泉の友達。

第3章

中野澄子 ↓ 第1章登場の中野貴士の母。岐阜県在住。
田中 ↓ 近所の男性。
高山 ↓ 近所に住む女性。

第4章

おばあさん ↓ 地震について語る。第1章から第3章はおばあさんの話。
孫 ↓ 過去の地震について、おばあさんから学んでいる。

防災ラジオドラマ

タイトル 「防災のステップアップ」

～南海トラフ大地震を中心～

ナレーション

20XX年〇月〇日午後一時十二分、2011年3月の東北地方太平洋沖地震以降、発生が危惧された南海トラフを震源とする大地震が発生した。今回の大震の直前に、多くの地震研究者が南海トラフの異常を観測したことから、地震発生の2日前に気象庁が警告を出していた。

(第1章 「東京編、目黒のケース」)

地震発生1日目（発生から1時間後）

ナレーション

地震の発生により、交通機関はストップした。そこで、A株式会社がある東京都千代田区から目黒と中野は歩いて会社から帰宅することになった。

公共交通機関が機能しなくなることぐらい想定の範囲内ですね、中野さん。

中野

あたりまえだよ。オレなんか防災グッズに加えて、ランニングシューズまで用意しておいたからな。余裕で歩いて帰れるよ。家にも3日分の食料は用意しているしな。目黒の家は埼玉だっけ？

目黒

ええ、春日部です。私も防災グッズ用意していたので、時間はかかるけど帰れると思います。

中野

“備えあれば憂いなし”ってか。じゃあ、オレはこ
っちだから。目黒、気をつけて帰れよ。

目黒

はい。中野さんも気をつけて。

ナレーション

多くの地方自治体、企業、そして各人が大地震に備
えていたこともあって、目黒をはじめとする201
1年3月に震災難民と呼ばれた人々は、今回の地震
では無事帰宅することができた。

地震発生2日目（発生から約25時間後）

ナレーション

昨日の地震の影響で電力供給が一時的にストップし、
目黒の会社は休みとなつた。そこで目黒は地震の情
報を得るために自家用車内のテレビを見ていたところ、
実家のある京都で余震が起つたことを知る。

テレビのキャスター

大変なことになりました。大阪、名古屋は津波で水
没し、その機能を失つております。東京も電力供給
が絶たれたことから首都機能がマヒしております。

効果音

（ピーン、ピーン。「地震速報」のテロップ）

テレビのキャスター

えー、たつた今、地震があつたようです。場所は岐
阜県大野郡で、震度は7。地震の規模を示すマグニ
チュードは6.4、震源の深さは10キロと推定さ
れています。

目黒

おいおい、実家のすぐ近くじゃねーか。お袋、大丈
夫かな。電話してみよう。

ナレーション

ケータイ電話で岐阜県にいる母親に電話を掛けよう
としたとき、目黒はあることに気付く。

目黒

あれ、圈外になつてる。なんでだ。そこまで圈外

じゃなかつたのに。

……、くそ、つながらないな、なんでだよ。

ナレーション

地震の直後、関東地方で大規模な停電が起こっていた。停電の際には、携帯電話の基地局は内蔵されたバッテリーで稼動するのだが、この時にはそのバッテリーも切れてしまっていたのだ。

地震発生2日目（発生から約32時間後）

効果音

（ピーン、ピーン。「地震速報」のテロップ）

テレビのキャスター また岐阜県で地震がありました。マグニチュードは6.2、震源の深さは10キロです。

目黒

余震か。おふくろ心配だなあ。でも、昨年、耐震補強したから大丈夫かな。

地震発生3日目（発生から約55時間後）

ナレーション

地震発生から3日目ぐらいから各家庭で食料が底をつき始めたので、目黒をはじめとする市民が近所のスーパーに食料を求めて集まっていた。

どうどう備蓄していた食料がなくなつたか。近所のスーパーに行ってみるとするか。

（スーパーにて）

食料はもうありません。入荷の見込みも立つておりません。申し訳ありません。

店長

この店も食料がないのかよ、これで6件目だ。腹減

目黒

つたなあ。あつ、近くの学校に行つてみよう。もしかしたら、食料をもらえるかもしれない。

(学校の体育館にて)

目黒 すみませーん。

避難所の職員 どうしました。

目黒 近所に住んでいるんですけど、食料を少しあわけてもらえませんか。

避難所職員 食料ですか。実はうちも含めて、近隣の避難所でも、すでに食料が底をついているんです。国は多急ぎで食料を運び込んでいるようなんですが。

ナレーション 目黒は、近隣の避難所を回つたが、そこでも食料はなかつた。

地震発生10日目（発生から約230時間後）

目黒

避難所では、餓死者がでているらしいな。体力の少ない子供やお年寄りはどんな想いでいたんだろう。あれだけ高齢社会について関心が高かつたのに、食料不足で亡くなることになるなんて。俺も7日間何も食べてない。そろそろ限界だなあ。

ナレーション

食料は九州や東北、北海道、そして海外から関東地方に運び込まれていたが、道路の断絶や交通網の遮断等により想定どおりに運びこむことができなかつた。さらに困難を極めたのは、関東地方に住む約4000万人分の量の問題だった。政府は自衛隊のほとんどを動員し、急ピッチで食料の運び込みを指示したが、思うように配分することができなかつた。というのは、食料を配る側の人数が圧倒的に足りない

かつたのである。また地域によつて食料の配給にばらつきがあり、食料があまる地域もあれば、目黒がいた地域のように食料配給が少ない地域も出た。そのため10日目あたりから、餓死者が出始めたのであつた。今回の地震では、適量の食料を適切な場所に配分するという極めて難しい課題が残つた。

(第2章 「大阪編、和泉のケース」)

地震発生1日目（発生から5分後）

ナレーション

大阪にある大学に通う和泉と神戸が、大阪の道頓堀で南海トラフを震源とする今夏の地震にあつ。しかし2人はまだ震源地、地震の規模など地震に関する情報がない状態だつた。2人の会話から第2章がはじまる。

和泉

神戸

わからへん、調べてみよか。

ナレーション

神戸は携帯を取り出し、ワンセグでニュースを見て地震の情報を知ることになる。

テレビのキャスター
(ワンセグの声)

東海地方で大きな地震が発生しました。震源地は東海沖および南海沖、地震の規模を示すマグニチュードは8.0と推定されております。津波の発生が予想されます。海岸近辺にお住まいの方は、安全な高いところに避難してください。自分の命を守る行動をしてください。

気象庁の予想当たつたやん。はよ、逃げようや。津

和泉

波来るで。

神戸

落ち着けや、和泉。こういうときは冷静にならんとあかん。今テレビで“マグニチュード8.0”って言うてやん。マグニチュードは1.0違うと、エネルギーが32倍違うんや。東北の地震では9.0やつたやん。ということは、今回の地震は、東北の地震の32分の1のエネルギーでしかないから、予想されどるほど大きな津波にはならん。慌ててパニックになるよりも、まずはここに残つて状況を把握した方がええって。

和泉

アホ。テレビでも、逃げろって言うてたやん。逃げた方がええって。

神戸

お前までパニックになつて、どうすんねん。落ち着けや。

和泉

オレは逃げるで。

ナレーション

和泉は大阪城の方へ走つていった。

神戸

勝手にせいや、日本人の冷静さは世界が認めてるんや。

ナレーション

これより約2時間後、道頓堀は川を逆流してきた津波によつて水没した。大阪城近くに避難していた和泉は、津波から逃れることができた。しかし津波が襲来するまで道頓堀にいた神戸は、津波に飲まれてしまつた。翌日、気象庁はマグニチュードを9.1に上方修正し、発表した。

地震発生30日目（地震発生から1ヶ月後）

和泉

あの時、神戸の腕を無理やりにでも引っ張つて一緒

ナレーション

に連れて行けば、あいつも死なずすんだかもしない。ああ、一生の後悔だ。

神戸は自分の勝手な判断で命を落としてしまった。災害時には、まず逃げるという事が何よりも必要である。特に沿岸地域では地震の大小に関係なく、逃げる行動を起こす必要がある。2010年2月、チリにおいてマグニチュード8・8という地震が発生したが、津波による被害者はおよそ200人と、東北地方太平洋沖地震と比べて極めて少ない人数であった。地震の発生を感じたチリ人は、津波から身を守るためにすぐに逃げたという事であろう。この心が神戸にあってほしかった。ところで、マグニチュードに種類あることをご存知だろうか。気象庁が自身の計算式で発表したマグニチュードを気象庁マグニチュード、地震学等で広く使われているのをモーメントマグニチュードという。東北の地震で9・0というマグニチュードが発表されたが、これはモーメントマグニチュードであつた。これまで気象庁は、気象庁マグニチュードで地震の規模を発表してきた。しかし東北の地震では、気象庁マグニチュードでは、その大きさをうまく示せないことから、モーメントマグニチュードを用いたという。なお東北の地震での気象庁マグニチュードは8・4であつた。

さらに大きな地震では正確なマグニチュードの算出には時間がかかることから、気象庁は暫定値を発表する。そういう事情から、初期段階で発表されたマグニチュードは、実際の数値よりも小さい数値になってしまうのだ。神戸がこのことを知つていれば、死に至ることはなかつたかもしれない。

(第3章 「岐阜編、中野（母）のケース」)

地震発生1日目（発生から約10分後）

ナレーション

ここは岐阜県大野郡白川村。春日部に住む、目黒の実家がある場所である。実家には、目黒の母が一人で暮らしていた。

澄子（目黒の母）

大きな地震だったわ。貴士、大丈夫かしら。

ナレーション

澄子は貴士に電話で連絡を試みるが、つながらなかつた。その後、澄子は何度か貴士に連絡を試みるが、この日、連絡を取ることはできなかつた。今回の東海地震では、岐阜県は震度4であり、大きな被害はなかつた。

地震発生2日目（発生から約二十五時間後）

効果音

澄子

ガタガタ。

効果音

澄子

ドーン、ドーン、ドーン。ガシャーン。

効果音

ナレーション

岐阜県大野郡でマグニチュード6.4、震源の深さは10キロの地震が発生した。この地震で、澄子に怪我はなかつた。昭和30年頃に建てた古い家であったが、大きな地震を想定して、昨年、家の耐震補強していたことが澄子の命を救つたのであつた。地震がおさまると、近所に住む田中さんが澄子の家に飛び込んで来た。

田中

目黒さん、大丈夫か。

澄子

田中

とりあえず、けがはない。それにしてもでかい地震
だつたなあ。車に乗っていたから、けがはないが、
家の中にいたら家の下敷きになっていたよ。

地震発生2日目（発生から約32時間後）

ナレーション

この地震で、澄子の家と数件を除いた多くの家が倒壊した。そして役場との連絡がとれなくなっていた。多くの人は避難計画通り避難所にいったが、澄子と数名の近所の住民は、澄子の家にどどまることにした。というのは、避難所は人がいっぱいであつたことと、澄子の家は耐震補強をしたばかりだから安心だということからであつた。

どうやら避難所でも役場との連絡が取れていないらしい。

明日も連絡が取れなかつたら、車で役場に行つてみるしかないな。

田中 明日も連絡が取れなかつたら、車で役場に行つてみるか。

高山 効果音

田中 あつ、地震。

ドーン、ドーン、ガシャーン。ズドーン。

ナレーション

余震が発生、澄子の家は倒壊した。この地震はマグニチュード6.2、震源の深さは10キロであった。耐震基準というものは、1回目の大きな地震で倒壊を防ぎ、家から脱出できるようにするための基準であ

る。倒壊しないための基準ではない。このことをしつかり把握していれば、澄子を含めた数名は家に留まるることはなかつたかもしれない。

(第4章 「まとめ」)

地震発生から1000年後

おばあさん

これ以外にも、高齢者施設や障害者施設などの介護施設にも問題が起こつたんじや。例えば、後見人との連絡がつかず必要な措置を受けられなかつたり、備蓄用食料が硬すぎて高齢者が食べることができなかつたりと地震による直接の被害よりも、地震によつて生じた問題で大混乱が生じたんじや。この時代、防災のために避難訓練は行つていたんじやが、避難のための訓練しかおこなつておらず、避難後の生活にまで目を向けていなかつたのじやな。

孫

大きな地震では避難も大切だけど、その後の生活も大切だもんね。しつかり、そのあたりも考えておく必要があつたんだね。そういうばさ、備蓄用食料の中には、パンみたいなやわらかい食料もあつたんじゃないの。

おばあさん

あつたよ。しかしながら、高齢者の中にはパンですら食べられない人だつているんじやよ。1912年の関東大震災（関東大地震）では火災で、1995年の阪神大震災（兵庫県南部地震）では建物倒壊による圧死で、2011年の東日本大震災（東北地方太平洋沖大地震）では津波で多くの死者が出たんじやが、20××年に南海トラフで起こつた大地震では、地震後の大混乱で多くの死者が出たんじや。

そういう事態を踏まえて、2次的防災の概念が生

孫

おばあさん
まれたんだよね。

おばあさん
2次の防災という言葉が適切かどうか分からぬが、
少なくとも「大地震発生からまず命を守る」という
視点から、「大地震発生から命を守り、復旧までの生
活を考える」という視点に、変わつていったんじゃ
な。

孫
おばあさん
だから、今の日本の防災体制が世界中から評価され
ているんだね。

おばあさん
そうじゃ。今は西暦30XX年、21世紀に起こつ
たような大地震が東北地方や、東海地方で再び起
ることが予想されておる。そうなつたときこそ、過
去の経験を活かす時じやな。

孫
おばあさん
今の日本の防災体制は、建物の倒壊、津波、食料、
火災、医療、通信などの技術的問題は克服できてい
るつて言われておるから、後は僕たちの心構えだけ
だよね。

おばあさん
そうじゃ。いかに防災体制が整つていても、そこに
慢心があれば大きな災害に発展してしまう。防災に
対する高い意識を常に持つていくことが、何より大
切なんじやな。

孫
おばあさん
わかつたよ、ばあちゃん。そういういえば、高田の松原
つてさ、東日本大震災で大きな被害を受けたんでし
ょ、歴史の授業で習つたよ。今はどうなつておるの。

おや、まだ高田に行つたことが無かつたのかい。今
や立派な松が育ち、とても美しいんじやよ。100
0年前の日本人は綺麗な風景を楽しんでいたんだね
え。じゃあ、これから岩手に行つてみようか。

孫
うん、僕行きたい。